

治験ニュースレター

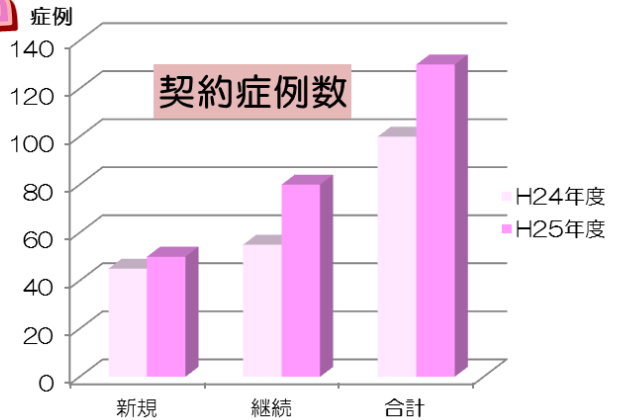
第35号

島根大学医学部附属病院臨床研究センター 治験管理部門発行 (2014.7)

治験管理センター
名称変更のお知らせ

治験管理センターは、26年4月から臨床研究センター治験管理部門と新たな体制となり名称を変更しました。
これまでと同様に、皆さまのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

H25年度 治験実施状況のご報告



平成25年度の治験等（製造販売後調査を含む）における実施状況がまとめられました。その中で、契約件数については、22年度以降順調に増加してきており、25年度も引き続き大きく伸びを進め新規17件、継続21件、合計38件となりました。さらに、契約症例数についても前年度を大きく上回りました。契約金額については、25年度から治験経費の支払い方法がこれまでの「契約金額50%以上前納制」から「出来高払い制」に移行したため、25年度の治験件数、症例数の増加が今年度に反映されます。各診療科において新規治験を積極的に受け入れていただいたおかげです。本当にありがとうございました。今後とも引き続きよろしくお願いいたします。

治験の活性化にご協力くださった金子先生・近藤先生が 病院長表彰を受賞されました

平成25年度病院長表彰授賞式において、「治験の活性化に顕著な功績を挙げられた方」部門で皮膚科 金子 栄先生と膠原病内科 近藤 正宏先生が表彰を受けられました。金子先生には、過去3年間に尋常性乾癬、水疱性類天疱瘡、ステーブン・ジョンソン症候群の治験責任医師・分担医師としてのべ11症例をご担当いただき、近藤先生には、活動性関節リウマチ治験において7症例をご担当いただき、現在も進行中です。金子先生・近藤先生から受賞のコメントをいただきました。

治験は高額でそれまで治療が受けられなかった人に治療をうけてもらえるというメリットがありますが、医師の立場からすると煩雑な作業でもあります。治験症例数が多いということで賞をいただいたのは、治験管理センターの方々、スムーズに進行できるようご配慮くださったことの賜物に他なりません。厚く御礼申し上げます。



近藤先生 金子先生

患者への説明から始まり、ウォッシュアウト時の増悪の対処、データ取り、書類記述、治験管理センターの看護師や治験コーディネーターとの打ち合わせに加え、この春には当局の実地調査まであり、労力の割に報われない業務です。しかし、同じ苦勞をされ敬愛する近藤正宏先生と同時受賞で報われました。ありがとうございます。

新しい治験スタッフ紹介します！

会計課の小山 拓史（こやま たくし）と申します。これまで「治験」という言葉に馴染みがない部署におりましたので皆さんに教わることはわかりませんが、言葉に慣れ仕事に慣れるよう頑張りますので、ご指導よろしくお願いいたします。



検査部の佐藤 恵美（さとう えみ）です。昨年12月から治験の担当をさせていただいています。半年が過ぎ、少しずつ仕事に慣れてきました。まだまだ戸惑うことが多々ありますが、少しでも皆さんのお役に立てるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



佐藤千恵子（さとうちえこ）と申します。6月から治験管理部門で、勤務させて頂いています。今まで経験のない業務に、戸惑いがありますが、皆さんに教えて頂きながら、前向きに挑戦したいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

